

科目名	老年看護方法 I (生活機能と看護) Gerontological Nursing I		担当教員 (研究室番号)	小松 美砂 (301)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	misa.komatsu@mcn.ac.jp					
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	要支援・要介護者を対象とした介護保険制度やサービスなど、高齢者に対する保健活動について学ぶ。また、口腔衛生や排泄 介助など高齢者の生活機能を維持・向上するための看護について理解を深める。さらに、認知症高齢者への看護や、高齢者の 終末期医療およびターミナルケアについて考える機会とする。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。										
	関連する DP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。 G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力 を身につけている。(思考・判断)										
到達 目標	1. 介護保険制度の特徴や、主なサービスなど高齢者に対する保健活動について説明できる。 2. 口腔衛生や排泄介助など高齢者の生活機能を維持・向上するための看護について特徴を説明できる。 3. 認知症の特徴と、認知症高齢者への看護の現状について概略を説明できる。 4. 高齢者の終末期医療およびターミナルケアについて特徴を説明できる。											
成績評価方法 (基準)	試験 (85%)、レポート課題 (15%)											
再試験の有無と 基準等	科目の合否結果で不合格となった者には、当該学生からの申請により再試験を実施する。再試験は筆記試験とし、 それまでのレポート課題や出席状況は再試験の評価に加味しない。											
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)											
参考書等	講義の中で必要時紹介します。											
学生の主体性を伸ば すための教育方法と 学生への期待	全ての演習でグループワークやディスカッションの時間を設けます。ここでの学習は臨地実習につながる内容です ので、実践でどのように活用できるかを意識し、重要な点について主体的に学習し整理しておいてください。											
備考	老年看護学概論を修得していないと履修できません。 老年看護方法Ⅱの先修条件となっています。											
回	学習項目				学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	高齢者の生活と健康を支える保健・医療・福祉：介護保険制度とサービス				高齢者に関わる保健・医療・福祉の変遷や、現在の高齢者保健・医療制度、介護保険制度のねらい・特徴・主なサービスについて学ぶ。(グループ・ディスカッションを含む)				小松	演習		
2回	高齢者の日常生活活動：高齢者総合的機能評価、活動と休息、転倒				高齢者とのコミュニケーションの特徴、高齢者総合的機能評価の概要、活動と休息を含めた生活リズムの特徴、転倒のリスク要因について学ぶ。(グループ・ディスカッションを含む)				小松	演習		
3回	高齢者の食生活の特徴と嚥下障害				高齢者の食事・食生活の特徴や、嚥下障害の特徴と看護について学ぶ。また、口腔ケアなど高齢期における歯科保健活動について学ぶ。(グループワーク・発表)				小松	演習		
4回	高齢者の排泄障害と皮膚のトラブル				高齢者の排泄の特徴や、排泄障害及び脱水の特徴と看護について学ぶ。また、高齢者の清潔の意義や、高齢者特有の皮膚トラブルについて学ぶ。(グループ・ディスカッションを含む)				小松	演習		
5回	認知症高齢者の看護①				認知症の定義、原因疾患、主なスクリーニングテスト、治療、症状など認知症の特徴を学ぶ。(グループ・ディスカッションを含む)				小松	演習		
6回	認知症高齢者の看護②				認知症高齢者の看護における理念や原則、行動障害の特徴と看護について学ぶ。(グループ・ディスカッションを含む)				小松	演習		
7回	認知症高齢者の看護③				認知症高齢者への非薬物療法、人権を守るための制度、今後の課題について学ぶ。(グループワーク・発表)				小松	演習		
8回	高齢者の生と死を支える看護				高齢者の終末期医療の特徴やターミナルケアについて学ぶ。(グループ・ディスカッションを含む)				小松	演習		

学 習 課 題	
1回目課題 (事後)	現在の高齢者保健・医療制度および介護保険制度とサービスの特徴について整理する。
2回目課題 (事前)	高齢者とのコミュニケーションについて自己学習する。
(事後)	転倒のリスク要因を復習し、臨地実習で転倒予防に活用できるようにしておく。
3回目課題 (事前)	嚥下訓練と口腔ケアの方法を自己学習し提出する。(配点5点：自己学習内容をグループワークで発表する)
(事後)	グループワークを通して学んだ内容を整理する。
4回目課題 (事前)	高齢者が脱水や褥瘡を起こしやすい理由について自己学習する。
(事後)	高齢者に多くみられる尿失禁の特徴について整理する。
5回目課題 (事前)	今までに学習した認知症および認知症看護について振り返り、疑問点を明らかにし文献を用いて自己学習する。
(事後)	学習した内容を整理し提出する。(配点5点：自己学習内容をグループワークで発表する)
6回目課題 (事前)	認知症の原因疾患・症状について自己学習する。
(事後)	認知症の行動・心理症状の特徴と対応について整理する。
7回目課題 (事前)	認知症高齢者への非薬物療法について自己学習し提出する。(配点5点：自己学習内容をグループワークで発表する)
(事後)	グループワークを通して学んだ内容を整理する。
8回目課題 (事前)	高齢者へのエンドオブライフケアについて自己学習する。
(事後)	現時点での自己の看護観・死生観を記述する。

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。